

毛越寺概要

毛越寺は文化的に富んでいる平安時代(794-1185)における日本の最も信仰の厚いことを示す遺跡の一つです。寺院の敷地は、当時のさまざまな文化および宗教的特徴と周囲の自然景観である円隆寺を独自に組み合わせたものです。元来の素晴らしかった寺院の構造が争いや自然災害で 1226 年に焼き落ちたにもかかわらず、創建時の石や池はまだ残っており、とても希少です。

毛越寺の伝説

毛越寺は慈覚大師円仁(794-864)により 850 年に創建されたと言われています。仏教の天台宗の中で高い地位を占めた僧で彼は日本の東北地方巡業の際に多くの寺院を創建しました。

毛越寺の造営

1128 年に藤原基衡(1105-1157)が寺院の造営を命じ、初期の建築が始まりました。そして、彼の子藤原秀衡によって 1187 年に引き継がれ完成されました。毛越寺は平泉の南口に作られ、その頂点には 40 もの寺院建築と現在の寺院へと続く 500 人の僧侶の生活部分があります。「吾妻鏡」として知られる 13 世紀の日本史料によると、毛越寺はその地域において最も素晴らしい寺院であり、当時の首都京都にあるいくつかの寺院にも匹敵するとまで言われました。毛越寺は浄土仏教様式で作られており、その様式は平安時代後期の貴族や東北の藤原氏の間で人気が高かったものです。初期のこの様式の例は庭園と大きな池であり、これらは自然と調和している地球の仏教の楽園を示すために造られたと言われています。

現在の毛越寺

13 世紀から 16 世紀にかけて、すべての寺院の建物は火事で破壊されましたが、枝分かれした寺院からの文化的遺産、様々な建造物からの土台石や、日本庭園だけが比較的の良い状況で残されました。これらの発掘・保存活動によって今日の訪問者はこのような平安時代からの特徴的な遺構を見ることができます。これらの遺跡は 2011 年に UNESCO から世界遺産認定を受けたことに加えて、1950 年代に特別史跡と特別名勝に選ばれています。新しい本堂は平安時代の様式を専門とする建築家によって設計され、寺院創立の 800 周年記念に合わせて 1989 年に建築が開始されました。本堂は元の本堂とは違い場所に建てられていますが、今でも元来の平安初期の雰囲気を見せてくれます。